

9月9日(金) 実践報告2 第2室(341)

レジュメとカバーレターの書き方の指導 -履歴書と比較して-

How to Write a Resume and a Cover Letter -In Contrast with *Rirekisyo*-

木村 和美 (東京外国語大学非常勤講師)

I. 背景と目的

私のライティングのクラスでは、パラグラフィティングの基本をマスターして、明確で論理的なエッセイを書くことを目標としている。その過程で強調することのひとつは、書き手が責任をもつ (**writer responsibility**) ということである。英文では、和文のように読み手が文の内容から書き手の主旨を推測したりすることはなく、書き手はその主張をはっきり提示することが求められる。また、読み手に書き手のメッセージを明確に伝えるには、読み手が誰であるか、何を期待しているか認識するという、読み手を意識すること (**audience awareness**) も大事である。レジュメはエッセイではないが、日本語の履歴書しか書いたことのない学生がレジュメで戸惑う点は、書き手が責任を持つという基本姿勢である。既成のフォームに記入する履歴書と違い、レジュメは書き手(応募者)の責任で編集される。どのような構成にするか、どの情報を入れ、またその情報をいかに表すかは書き手に任せられ、書き手の自主性や創造性が表にでてくる。更に、履歴書には付けられないカバーレターがレジュメには必要で、カバーレターによって、書き手が読み手の注意を喚起し、自分の長所を強調するという点でも、書き手の責任が重要になってくる。同時に読み手(雇用側)が何を期待しているかという **audience awareness** も必要である。その意味で、このレジュメとカバーレターは、前期に学生に認識してもらった **writer responsibility** と **audience awareness** を応用する課題でもある。

II. 方法

対象学生は東京外国語大学の2年・3年で、「ライティング」のクラスを選択した25名である。後期の授業の2回分を使い、レジュメは用紙に記入することではなく、応募者の情報をいかに有効に書き表すかという点で、自主性・創造性が必要で、更に、日本の習慣にはないカバーレターで、読み手の興味を喚起し、自分が相手に何を貢献できるかを強調することを認識させる。まず、1回目の授業で、教師が履歴書の書式を見せ、学生はどの項目がレジュメでも必要とされ、どの項目が必要でないかを討論する。その後、レジュメの見本をいくつか見せ、履歴書とレジュメの違いを以下のようにまとめる。

- ① 履歴書では要求され、レジュメでは要求されないものには、写真、年令(生年月日)、性別、配偶者の有無、扶養家族の有無などがある。
- ② レジュメには当然書く必要があるが、履歴書には普通、書く欄がないものに、希望職種(**job objective**)、ボランティアなどの社会活動などがある。またレジュメでは職歴なども、ただ会社名だけでなく、具体的にどのようなことをしたかを説明する方が良い。
- ③ レジュメでは書式が決まっていないので、構成やレイアウトも自由で、書き手の裁量に任される。

次にカバーレターの見本を見せ、学生にその役割や効果は何か話し合わせる。教師がカバーレターの目的についてまとめ、次の点を強調する。

- ① 何の職に応募するのかを明記し、その職に重要な技術・能力を応募者が備えていることを

強調する。

- ② カバーレターの目的は面接にこぎつけることなので、実際に会ってみたいと採用者側に思わせるように、自分の長所、特にレジュメには表れていない良さを強調する。
- ③ 日本人の応募者がよく表現するように、貴社はすばらしいので自分は学ぶことが多いという受身の発想でなく、自分が相手の会社に対して、何をいかに貢献できるかを強調する。
- レジュメとカバーレターの目的が確認された後、宿題で自分のレジュメを書き、自分が応募したい外資系の会社を決めるか、または新聞などで見つけた求人情報を使って、カバーレターを書く。2時間目には、その作成してきたレジュメとカバーレターを、ペアワークで検討させる。採用する側にたち、レジュメに必要な情報が入っているか、カバーレターには面接に呼んでみたいと思わせるものがあるか、などをチェックさせる。そのピアアエディティングと教師からのコメントを参考にもう一度、各自レジュメとカバーレターを書き直す。

III. この授業の意義

1. 履歴書とレジュメの違いを習慣の違いではなく、ライティングの違いとして捉えることにより、前期に導入した **writer responsibility** と **audience awareness** の確認ができる。
2. 効果的なカバーレターを書くことにより、いかに相手を納得させるかという説得の作文の応用練習ができる。
3. 学生が2年生と3年生で、就職活動に関心があり、英文の書き方を別の面から確認する練習と、就職活動の準備を結びつけられる。特に、カバーレターを書くことで、英語での面接に必要な、自分が何を貢献できるかという積極性をいかに表現するかの、準備ができる。

IV. 結論

学生の方からの感想としては、次のようなものがあつた。

- 履歴書の常識で、レジュメを書くとき、まずそれだけで面接に通らないことがわかつた。
- 実際の就職活動が始まる前に時間をかけてレジュメを準備できるのが良かった。
- レジュメは履歴書と違い、アルバイトやボランティアの書き方いかんで自分の特徴をアピールでき、更にカバーレターで、応募する側の積極性を表現できると思った。
- 自分が面接するにあたいするという相手を説得しなくてはならないので、明確に論理的に書く必要性を感じた。

これらの感想からもわかるように、レジュメとカバーレターを書く練習は、就職準備として役立つだけでなく、学生達がそれ以前に学んだ、書き手が内容伝達についての責任を持ち、相手が何を求めているかを把握した上で説得力のある文章を書くという、ライティングの実践練習としても、意味があることが確認できた。

参考文献

- Hinds, J. (1987). Reader versus writer responsibility: A new typology. In U. Connor & R. B. Kaplan (Eds.), *Writing across language*. Reading, MA: Addison-Wesley.
- Roen, D. H. & Willey, R. J. (1988). The effects of audience awareness on drafting and revising. *Research in the Teaching of English*, 22(1), 75-88.